

「北海道一周鉄道旅行 (33)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

室蘭本線の室蘭～東室蘭間の支線には、途中 3 つの小駅があります。室蘭駅を出発した列車は、特急にもかかわらず、そのすべての駅に停車します。かつては、この支線区間は「普通列車扱い」でしたが、現在は種別「特急」のままで、全駅に停車しています。運転本数が少ないため、室蘭～東室蘭の駅間のみの乗車に限り、特急料金不要という特例が設けられています。



「母恋駅 (ぼこいえき)」もその駅の一つです。とても特急が停車するようには見えない小駅で、実際に乗降客は 0 でした。「母恋」の駅名の由来は、実は「母」とも「恋」とも無関係です。いくつかの地名解 (アイヌ語地名の解釈) が存在しますが、私は知里説の「ボク (セイ)・オ・イ (pok[sey]-o-i)」(ホッキ貝・多い・場所) が正しいと考えています。



わずか 11 分の乗車で東室蘭駅に着きました。たった 11 分のために特急車両に乗せてもらい、何か贅沢というか、得した気分になりました。

発車時刻表 Departure Time			
時刻	長万部・函館方面 for Oshima & Hakodate	室蘭方面 for Muroran	苫小牧・札幌方面 for Tomakomai & Sapporo
5	46 室蘭	52 室蘭	54 苫小牧
6		46 室蘭	40 苫小牧
7	13 室蘭 27 長万部	22 室蘭 45 長万部	13 苫小牧 40 室蘭
8		20 室蘭 41 長万部	07 苫小牧
9		06 室蘭	26 室蘭
10	20 室蘭 24 長万部	27 室蘭	08 苫小牧
11		23 室蘭	10 室蘭
12	28 室蘭	27 室蘭	00 苫小牧
13	56 長万部	47 室蘭	33 苫小牧
14		40 室蘭	39 苫小牧
15		18 室蘭	06 苫小牧
16	17 長万部	16 室蘭	05 苫小牧
17	42 長万部	25 室蘭	10 苫小牧
18			

支線の終端にある「本家室蘭駅」に比べると、室蘭線の本線と支線の交差点である東室蘭駅は、列車の本数は格段に多くなります。特急も各方面に 1 時間に 1 本のペースで発着していて、賑やかな時刻表です。



次に私が乗ろうとしているのは、函館方面の長万部 (おしゃまんべ) 行の普通列車です。私の持っていた切符では特急にも自由に乗れるのですが、普通列車に乗ったのには理由がありました。



北海道でも特急列車は最低でも 4 両編成ですが、普通列車は単行 (1 両) が多いです。乗客が少ないこと、乗務員が運転士だけのワンマン運転なことが理由です。「線路を走っているバス」に近い存在ですね。



室蘭本線の東室蘭～長万部間は、複線区間と単線区間が混在していますが、いずれも電化はされていません。この「のどかな線路」を、普通列車、特急列車、それに貨物列車がかなりの密度で走っています。

線の苫小牧～鶴川（むかわ）間も走っているのです。



駅からは「有珠山（うすざん）」がよく見えます。有珠山は標高こそ **773m** と低いものの、有史以来噴火を繰り返してきた活火山です。近年では西暦 2000 年に比較的大規模な噴火を起こしています。室蘭本線も一時期不通になり、夜行列車、特急列車、貨物列車などが、函館本線経由（小樽経由）で運転されました。



途中の北舟岡駅（きたふなおかえき）で数分間停車しました。対向列車と離合（すれちがい）するためです。この駅は内浦湾（噴火湾）の、ほとんど海岸にある駅なので、私はホームに降りてみました。対向列車が来るまでは絶対に発車しないので、安心です。

北舟岡駅からは、内浦湾（噴火湾）越しに、「駒ヶ岳」が霞んで見えました。以外にも近く驚きました。



乗客は次々と降りてきて、風景と海風を楽しんでいました。列車をよく見たら恐竜のイラストが描かれています。これは「むかわ竜」です。この車両は日高本

室蘭駅（←）から駒ヶ岳（←）までは、鉄道では **160km** もありますが、直線距離では 4 分の 1 以下の **37km** しかありません。内浦湾（噴火湾）の「せいで」、ものすごく遠回りをしているわけです！